

— 株主の皆様とのコミュニケーションツール —

# クラレ通信

第130期 期末報告書

2010年4月1日～2011年3月31日



## CONTENTS

- 1 … 会社概要
- 2 … 株主の皆様へ
- 3 … [特集1]  
2010年度 決算概況  
／2011年度 業績予想(連結)
- 5 … [特集2]  
「新たな成長に向かって」  
～「攻め」の姿勢で1兆円企業にチャレンジ～
- 7 … [特集3]  
クラレグループの主な製品を  
新セグメント別にご紹介します
- 9 … クラレグループトピックス
- 11 … 連結財務情報
- 13 … 株式情報
- 14 … お知らせ

株式会社 クラレ

社名	株式会社 クラレ
英文社名	KURARAY CO., LTD.
設立	1926(大正15)年6月24日
資本金	890億円(2011年3月31日現在)
東京本社	〒100-8115 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービル TEL(03)6701-1000 FAX(03)6701-1005
大阪本社	〒530-8611 大阪市北区角田町8-1 梅田阪急ビル オフィスタワー TEL(06)7635-1000 FAX(06)7635-1005
ホームページ	<a href="http://www.kuraray.co.jp/">http://www.kuraray.co.jp/</a>

### クラレグループの主な事業

樹脂	ポバール樹脂・フィルム、PVB樹脂・フィルム、 EVOH樹脂・フィルムの製造、販売
化学品	メタクリル樹脂、イソプレン系化学品、ポリアミド樹脂、 メディカル関連製品の製造、販売
繊維	ビニロン、人工皮革、不織布、面ファスナー、 ポリエステル繊維の製造、販売
トレーディング	繊維製品、樹脂、化学品の輸出入、卸売
その他	活性炭、水処理用高機能膜・システムの製造、販売、 エンジニアリング事業

### 役員(2011年6月22日現在)

代表取締役会長	和久井 康明
代表取締役社長	伊藤 文大
取締役/専務執行役員	蜷川 洋一
取締役/専務執行役員	片岡 史朗
取締役/常務執行役員	村上 敬司
取締役/常務執行役員	天雲 一裕
取締役/常務執行役員	山本 恭寛
取締役/常務執行役員	山下 節生
取締役	青本 健作*1
取締役	塩谷 隆英*1
常勤監査役	田中 隼介
常勤監査役	真鍋 光昭
監査役	小野寺 弘夫*2
監査役	山田 洋暉*2
監査役	藤本 美枝*2
常務執行役員	川原崎 雄一
執行役員	柳田 登
執行役員	前田 公平
執行役員	竹村 眞三
執行役員	長友 紀次
執行役員	福盛 孝明
執行役員	マティアス グトヴァイラー
執行役員	山田 修
執行役員	武本 修一
執行役員	綾 友幸
執行役員	雪吉 邦夫
執行役員	藤井 信雄
執行役員	小野寺 正憲
執行役員	松山 貞秋

\*1 青本 健作、塩谷 隆英は、社外取締役です。

\*2 小野寺 弘夫、山田 洋暉、藤本 美枝は、社外監査役です。

(注) 1.この冊子に記載した当社財務データはすべて連結ベースです。

2.この冊子に記載の( )をつけた名称は、当社グループの製品の商標です。

3.この冊子に記載した億円単位の当社財務データ(実績値)は、億円未満を四捨五入して表示しています。



代表取締役社長  
伊藤 文大

株主の皆様におかれましては、平素よりクラレグループをご支援いただき、厚く御礼申し上げます。

また、東日本大震災によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災地の皆様に関心をお見舞い申し上げます。

2010年度(2010年4月1日～2011年3月31日)の経営環境は、中国をはじめとする新興国経済の好調さに加え、欧米の景気も総じて回復に向かいました。一方で、日本経済は期後半の急激な円高、原燃料価格の上昇および3月11日の東日本大震災の影響により不透明感を増しています。

こうした中で、当社は中期アクションプラン『GS-Twins』(2009年度～2011年度)に掲げた事業拡大、成長に向けた積極的な施策に取り組むとともに、引き続き固定費削減をはじめとする収益改善策を実行してきました。

この結果、2010年度連結決算の売上高は前期比30,310百万円(9.1%)増の363,191百万円、営業利益は22,643百万円(74.4%)増の53,095百万円、経常利益は22,137百万円(76.5%)増の51,062百万円、当期純利益は12,426百万円(76.2%)増の28,742百万円と増収増益を果しました。また、利益の各項目は過去最高となるとともに、『GS-Twins』の営業利益目標500億円を1年前倒しで達成することができました。

2011年度は、さらなる事業拡大、成長に向け、『GS-Twins』に掲げた「コア事業の世界戦略の加速」「新事業の創出・拡大」を重点課題として取り組み、売上高400,000百万円、営業利益60,000百万円、経常利益58,500百万円、当期純利益34,000百万円を目指します。

また、当社は株主に対する利益配分を経営の重要課題と位置付けており、『GS-Twins』期間においては連結当期純利益に対する配当性向30%以上を目標とし、持続的な業績向上を通じた増配を目指しています。当期の期末配当金は1株につき14円とさせていただきます。この結果、当期の配当金は中間配当金と合計しますと1株につき27円(配当性向32.7%)となります。

なお、2011年度の年間配当については、予想連結当期純利益340億円を前提に、1株当たり6円増配の33円(配当性向33.8%)とさせていただきます。

皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

伊藤 文大

## 2010年度 決算概況 事業セグメント別概況

2010年度の経営環境は、中国をはじめとする新興国経済の好調さに加え、欧米の景気も総じて回復に向かいました。一方で日本経済は、期後半の急激な円高、原材料価格の上昇および東日本大震災の影響により不透明感を増えています。こうした中で、当社は中期アクションプラン『GS-Twins』に掲げた事業拡大、成長に向けた積極的な施策に取り組むとともに、引き続き固定費削減をはじめとする収益改善策を実行してきました。

### 2010年度 決算概況

(億円)

	2010年度	2009年度	増減
売上高	3,632	3,329	+303
営業利益	531	305	+226
経常利益	511	289	+221
当期純利益	287	163	+124
期中平均為替レート			
円/ドル	86	93	-
円/ユーロ	113	131	-
国産ナフサ価格/kl	47千円	36千円	-

### 2010年度 セグメント別売上高・営業利益

(億円)

	2010年度		2009年度		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
樹脂	1,474	508	1,366	392	+109	+117
化学品	757	87	667	20	+90	+66
繊維	616	△2	582	△28	+34	+26
トレーディング	1,151	33	1,026	20	+125	+13
その他	589	49	502	43	+87	+6
全社・消去	△956	△144	△813	△142	△143	△2
合計	3,632	531	3,329	305	+303	+226

### セグメント別の状況

#### ■ 樹脂

各事業ともアジア市場に加え、欧米でも需要が好調に推移しました。

- ① ポパール樹脂は、アジア市場および欧州市場が好調に推移しました。これを受け、欧州のプラント増設(年産24,000t)を決定しました(2013年度第1四半期稼働予定)。光学用ポパールフィルムは、期央に偏光板メーカーの生産調整の影響を受けたものの、全体的には旺盛な液晶テレビの需要を背景に伸長しました。これを受け、西条事業所の新ライン(年産2,000万㎡)の増設に着手しました(2012年度第1四半期稼働予定)。PVBフィルムは、欧州建築市場・自動車用途が順調に回復するとともに、太陽電池パネル封止材用途も拡大してきました。
- ② EVOH樹脂<エパール>は、新興国での需要が拡大し、特にアジア市場は自動車用途、食品包装用途を中心に一層の伸びを示しました。欧米では食品包装用途、自動車用途の需要が堅調に推移しました。さらに冷蔵庫の真空断熱板向けが国内外で採用が進むなど、新規用途の販売も拡大しています。

#### ■ 化学品

一部の事業が3月11日に発生した地震により鹿島事業所における生産を停止しましたが、総じて好調に推移しました。

- ① メタクリル樹脂は、成形材料およびシートが、いずれも堅調に推移しました。さらに、市況改善も加わり、収益は拡大しました。
- ② イソプレンは、熱可塑性エラストマー<セプトン>、液状ゴム<LIR>が順調に拡大し、好調に推移しました。化学品・ファインケミカルも国内・アジアを中心に販売が拡大し、製品の高出力価値化が進みました。
- ③ メディカルは、歯科材料が欧米における新タイプのコンポジットレジジン、ボンドの市場投入や販売体制強化の成果などもあり、堅調に推移しました。なお、歯科材料事業の強化・拡大のため、クラレメディカル株式会社は、株式会社ノリタケデンタルサプライと2011年4月をもって事業統合しました。
- ④ 耐熱性ポリアミド樹脂<ジェネスタ>は、LED反射板用途およびコネクタ用途など電子部材向けが、いずれも堅調に推移しました。

## 2011年度 業績予想

次期の経営環境については、大幅な原燃料価格上昇や為替変動の影響が想定されます。また、国内においては、東日本大震災の影響により、原燃料・部材の調達から製品需要に至るサプライチェーンの混乱も見込まれ、当社を取り巻く環境は極めて不透明と言えます。こうした中、当社は製品供給の安定化に最優先で取り組むとともに、原燃料価格上昇に対しては、価格改定や高付加価値化に引き続き注力していきます。なお、多くの事業で稼働率が上昇してきたことから、能力増強を中心とする設備投資に取り組めます。

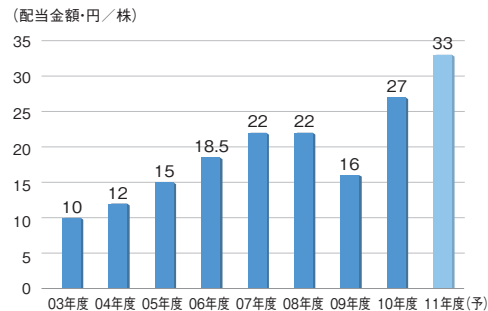
次期の業績予想は、平均為替を米ドル82円、ユーロ115円、国産ナフサ価格60千円／KLを前提としています。

### 2011年度 業績予想

(億円)

	上期	下期	通期
売上高	1,900	2,100	4,000
営業利益	265	335	600
経常利益	255	330	585
当期純利益	145	195	340
1株当り当期純利益	—	—	97円63銭
1株当り配当	16円	17円	33円

### 年間1株当り配当金推移



### ■ 繊維

ビニロンをはじめほぼ全事業において需要回復が進みました。

- ① ビニロンは、自動車用ブレーキホース用途、一次電池セパレータ用途の需要が拡大しました。また、アスベスト代替のFRC（繊維補強セメント）用途の需要も期を通じて回復基調となりました。
- ② 人工皮革<クラリーノ>は、環境対応型新プロセス品の需要が靴・手袋などで拡大するとともに、既存高付加価値品も回復基調にあります。なお、当事業は抜本的な事業構造の改革に取り組んでおり、汎用品の生産は中国合弁会社へシフトし、高付加価値品については国内の新プロセスへの集約を推進しています。
- ③ 不織布<クラフレックス>は、工業用ワイパーが堅調ながら、業務用カウンタークロスや産業用マスク需要が停滞しました。面ファスナー<マジックテープ>は、自動車・住宅関連が低調ながら、産業資材、メディカル、鉄道関連の需要は堅調に推移しました。

### ■ トレーディング

ポリエステルをはじめ繊維関連事業（衣料、資材分野）において差別化素材の採用が順調に拡大しました。樹脂・化学品・化成事業は、アジアを中心に順調に拡大しました。

### ■ その他

活性炭はキャパシタ（蓄電装置）、環境関連用途などで堅調に推移しました。それ以外の事業は徐々に回復しました。

# 「新たな成長に向かって」～「攻め」の姿勢で



代表取締役社長 伊藤 文大

## Q1

### 2009年度からの3か年中期アクションプラン「GS-Twins」は2年が経過しましたが？

策定時はリーマンショック直後の、先行きが全く読めない、深刻な世界大不況の真っ只中でした。そこで「GS-Twins」では、前中期経営計画「GS-21」で掲げた収益構造への回帰を目指し、経営の取組み方向を示したアクションプランとしました。そこでは経営目標を「収益構造の改善」、「コア事業の世界戦略の加速」、「新事業の創出と拡大」の3点に定めました。

2009年度は、まず「収益構造の改善」を掲げ、設備投資の先送り、在庫、経費の徹底した圧縮、人員効率化などの改善策に取り組みました。これにより難局を乗り切ることを優先させた訳です。

2010年度になると、中国をはじめとする新興国経済が予想を上回るスピードで市場拡大し、欧米の景気も回復に向かいました。酢ビ・ポパール系事業、イソプレン系事業を中心とする製品群が拡販となり、収益構造改善策が下支えした結果、クラレグループの業績は急回復しました。2010年度は、売上高こそ円高の影響を大きく受けましたが、利益は営業利益(531億円)、

経常利益(511億円)、当期純利益(287億円)とも過去最高となり、「GS-Twins」の営業利益目標500億円を1年前倒しで達成することができました。

そして、2011年度は「新事業の創出・拡大」、「コア事業の世界戦略の加速」を重点テーマとして取り組みます。

原燃料価格の高騰や東日本大震災の影響など、当社を取り巻く環境は不透明感を増していますが、状況を慎重に見極めながら、細心かつ大胆に戦略を展開していきたいと思えます。

## Q2 「新事業の創出・拡大」の状況は？

「GS-Twins」では、市場成長力が高く、クラレグループの技術ポテンシャルが発揮できる重点領域へ経営資源を投入し、環境指向型ビジネスの創出を目指しています。「環境」「エネルギー」「光学・電子」の3領域を重点領域と定めていますが、それぞれの領域について主なものをお話します。

まず「環境」領域については、アクアビジネスを中心に据えています。中空糸膜やPVAゲルなどを用いた水処理技術が、アクアビジネスのメッカであるシンガポールで複数のプロジェクトに採用されています。中国でも水処理事業の合弁会社を設立予定で、新興国を中心として事業を拡大していきます。また、太陽電池や半導体の製造プロセスで排出される有価物の回収システムや、海洋生態系保全のためのバラスト水管理システム<マイクロフェード>も数百億円規模の大型事業に育てたいと考えています。

次に「エネルギー」領域では、太陽光発電の高効率化に貢献する「集光レンズ」の事業化を先日公表しました。また、太陽電池パネル封止材向けPVBフィルムやキャパシタ用活性炭の拡販にも取り組んでいます。

「光学・電子」領域においては、クラレのオンリーワン素材である高耐熱性ポリアミド樹脂<ジェネスタ>が、液晶ディスプレイ光源用LEDの反射板に採用され、LEDテレビの広がりとともに伸びています。これを一般照明用LEDにも展開することができれば一層の成長が見込めますので、重点的に開発に取り組んでいます。また、今年度中に量産設備が稼働するアクリル系熱可塑性エラス

# 1兆円企業にチャレンジ～

【社長インタビュー】 代表取締役社長 伊藤 文大

トマー<クラリティ>も照明用部材として期待しています。

さらに既存分野でも、本年4月の(株)ノリタケデンタルサプライとの歯科材料事業統合、液状ゴム<LIR>のタイヤ向け展開、ガスバリア性樹脂<エパール>の真空断熱板向け展開、新タイプ不織布<フレクスター>、環境対応型人工皮革の本格展開など、次々と新たな事業展開を実施しています。

## Q3 「コア事業の世界戦略の加速」の状況は？

まず、生産拠点の拡充についてお話しします。

酢ビ・ポパール系事業、インブレン系事業では製品需要が回復・拡大しています。それに伴って生産設備の稼働率が上昇しているため、ポパール、PVB、ガスバリア性樹脂<エパール>、熱可塑性エラストマー<セプトン>などの生産設備拡充が必要です。現在、欧州でポパール樹脂、西条事業所でポパールフィルムの増設工事を進めています。さらに、先般決定した米国テキサス州の工場用地取得に引き続き、北米、欧州、アジアでの設備投資を本年から来年にかけて決定していきます。

次に、販売拠点の拡充について、中国やシンガポールに加え、新たにインド、ブラジルに拠点を開設し、新興国市場の開拓を進めています。<エパール>やアスベスト代替のセメント補強用ビニロンに代表されるように、当社の製品の多くは高い機能が特

長で、先進国が主な市場でした。これからは新興国の生活水準向上に伴い、当社製品の活躍の場が大きく広がるものと確信しています。

## Q4 2011年度の計画と次期中期経営計画の考え方は？

2011年度は、何と言っても、東日本大震災の復興に対して事業活動を通じていかに貢献できるかが大きな課題となります。一方で、原材料価格の大幅な上昇も見込まれますので、製品の高付加価値化や価格改定に引き続き注力して対処していきます。その上で、「新事業の創出・拡大」「コア事業の世界戦略の加速」を積極的に推進し、「売上高4,000億円」「営業利益600億円」を目指します。

クラレグループは企業ビジョンである「持続的に成長するスペシャリティー化学企業」として、2018年に「売上高1兆円」企業となることを長期目標としています。

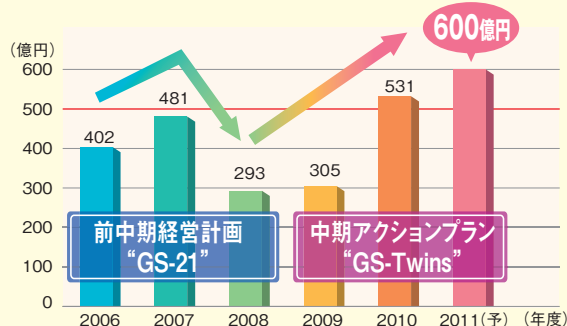
次期中期経営計画では、その目標達成に向けた戦略の構築・策定を実施しなければなりません。まず、向こう6～7年後を見通し、実現すべき姿を描き、それを見据えて2012年度から3年間の次期中期経営計画期間中に実施すべき事項、準備すべき事項を明確にします。そして、それを推進するための具体的拡大戦略・施策を織り込んだ積極的かつ実行可能なアクションプランとしていきます。

現在までの状況を考えると、「新事業の創出・拡大」「コア事業の世界戦略加速」にM&Aを加えることによって長期目標達成は十分射程圏内にあると考えています。

## Q5 株主還元の方針は？

「GS-Twins」の間中は、「連結当期純利益に対する配当性向30%以上」の方針堅持による業績向上を通じた増配に注力しています。その方針の下、2011年度はさらに増益を図り、当期純利益340億円を目標に、1株当たり6円増配の年間配当33円(配当性向33.8%)を目指します。

## 中期アクションプラン“GS-Twins”の 営業利益目標500億円を達成し、さらなる飛躍へ



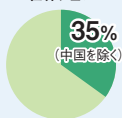
# クラレグループの主な製品を新セグメント別

## 樹脂

### ポパール PVA樹脂

**世界1位**  
世界シェア

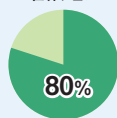
合成繊維ビニロンの原料樹脂として工業化されたポパールは、水溶性、造膜性、接着性、乳化性、耐油性、耐薬品性などの特性を持ち、紙加工剤、接着剤や塩化ビニル樹脂の重合安定剤などのさまざまな用途で使用されています。



### 光学用ポパールフィルム

**世界1位**  
世界シェア

薄型大画面テレビをはじめ、モニター、パソコン、携帯電話などの液晶ディスプレイに欠かせない偏光板のベースフィルムとして、高い世界シェアを持ちます。



### <モビタール>PVB樹脂/<トロシフォル>PVBフィルム

**世界1位**  
世界シェア

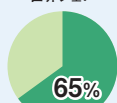
ポパールから生まれたPVB樹脂<モビタール>は、接着力と透明性に優れ、インクやファインセラミックスのバインダーなどに活躍しています。また、PVB樹脂を原料とするPVBフィルム<トロシフォル>は、合わせガラス用中間膜として建築用を中心に、自動車用にも使用されており、さらに太陽電池パネルの封止材としても用途が広がっています。



### <エパール>EVOH樹脂

**世界1位**  
世界シェア

プラスチックの中で最高レベルのガスバリア性(気体を通さない性質)を持つ樹脂です。酸素を遮断し内容物の劣化を防ぐため、食品包装材として普及しています。また、ガソリンの揮発を防ぐため、自動車のガソリンタンクにも使用されています。さらに、大型冷蔵庫の真空断熱板にも採用され、省エネに貢献するなど、用途を拡大しています。

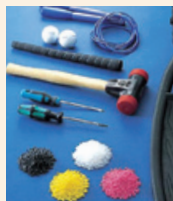


## 化学品

### <セプトン>水添スチレン系熱可塑性エラストマー

**世界2位**  
世界シェア

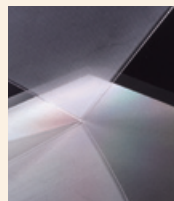
<セプトン>は、成形性、リサイクル性に優れており、自動車、家電、雑貨などに用いられる各種部材の高機能化ニーズとともに、幅広い分野での採用が拡大しています。



### メタクリル樹脂

**世界1位**  
世界シェア

透明性、耐候性、光沢性、耐擦傷性などの特長を生かし、自動車、家電、雑貨などさまざまな分野に採用されています。近年では液晶ディスプレイ向け導光体などの光学部品分野で高いシェアを持っています。



### <ジェネスタ>耐熱性ポリアミド樹脂

**世界初**  
世界シェア

独自の技術から生まれた新しい耐熱性ポリアミド樹脂。携帯電話やパソコンなどの電子部品はもちろん、LED液晶テレビのバックライト用途や、自動車分野にもその用途は拡大しています。



### 歯科材料

**国内1位**  
国内シェア

天然歯に近い歯科修復を可能にします。高品質とブランド力を誇る<クリアフィル>シリーズを筆頭に、各種歯科材料を開発、その展開は日本から世界へと拡大しています。





# にご紹介します

クラレグループは、2009年度まで「化成系・樹脂」「繊維」「機能材料・メディカル他」であったセグメントを2010年度より「樹脂」「化学品」「繊維」「トレーディング」「その他」に変更いたしました。

## 繊維

### ビニロン/＜クラロンK-II＞PVA繊維

世界1位  
世界シェア

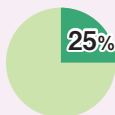
高強力、低伸度、親水性などのユニークな機能を持つ合成繊維ビニロンは、アスベスト(石綿)代替のセメント補強材、乾電池のセパレーターなど産業資材として展開。また新たな生産技術から生まれた＜クラロンK-II＞は、水溶性や高強力の特徴を持つ新しい繊維です。



### ＜クラリーノ＞人工皮革

世界1位  
世界シェア

天然皮革に学んだ精緻な構造と高い機能性を兼ね備えた人工皮革。ランドセルなどのかばん、各種シューズ、またボール、手袋、衣料、インテリアなどに採用されています。



### ＜クラフレックス＞不織布

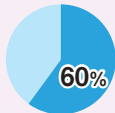
吸水性、通気性、柔軟性に優れ、ウェットティッシュなどの生活用品から、業務用・産業用ワイパー、救急絆創膏、マスク向けのフィルターなどに活用されています。



### ＜マジックテープ＞面ファスナー

国内1位  
国内シェア

ワンタッチでしっかり留めることができるので、衣料や靴、かばん、メディカル製品から自動車部品などの工業資材までさまざまな分野で活躍しています。



## トレーディング

### ポリエステル

独自ポリマーの応用などにより特徴ある素材を開発し、衣料分野や産業資材分野、不織布の原料などに展開しています。



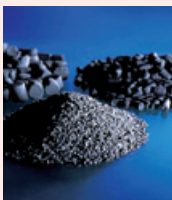
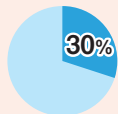
※トレーディングではポリエステル系繊維の他、樹脂、化学品などのクラレグループ製品および他社品、加工品を取り扱っています。

## その他

### ＜クラレコール＞活性炭

国内1位  
国内シェア

蒸散ガソリンの吸着、キャパシタの電極材、水処理用途など環境分野で市場を拡大する活性炭。孔の直径や容量を独自技術で調節することで、高度化するニーズに対応します。



### 水処理用ろ過膜

ミクロンオーダー以下の微粒子を液体から分離するろ過膜を、清酒の醸造工程や、浄水・排水処理、また半導体などの先端産業に不可欠な超純水製造にも展開しています。



### ＜ゼクルス＞排水処理システム

＜ゼクルス＞は、生物処理槽に自社開発のPVAゲル＜クラゲール＞を採用した、省スペース型の排水処理システム。従来の活性汚泥法に比べ、廃棄処理が必要な余剰汚泥がほとんど発生しないという画期的なシステムです。



# クラレグループトピックス

2010年 10月

11月

12月

## ●プラスチックシンチレーションファイバー (PSF) の受注について

当社は米国の素粒子研究所であるフェルミ研究所およびジェファーソン研究所からニュートリノおよびクォークの検出用素材としてPSFの大量発注を受け、製品の出荷を開始しています。

PSFはプラスチック製光ファイバーの一種で、当社が1980年代に世界唯一の製法により放射線検出用素材として開発。その後、数々の研究機関への地道な供給継続と技術蓄積を背景に素材の品質向上を図った結果、放射線検出用素材のデファクトスタンダードとなり、過去約20年間の出荷総額とほぼ同等という今回の大型受注につながりました。

またPSFは、宇宙物理学のトレンドであるダークマター(暗黒物質)の検出用素材としても活用が見込まれています。



PSFのサンプル写真(直径0.7mm)

## ●欧州におけるポバール樹脂生産設備の増設について

当社は、欧州現地法人クラレヨーロッパ(KEG)のポバール樹脂生産設備増設(24,000トン/年)を決定しました。

### ●設備増設の概要

場 所	ドイツ・フランクフルト
生産能力	今回増設分 24,000トン/年 既存設備分 70,000トン/年
	増設後計 94,000トン/年
投資額	約58百万ユーロ(約70億円)※
稼動時間	2013年度 第1四半期の予定

※投資額には増設工事と同時に実施する省エネなど合理化工事の費用を含みます。

ポバール樹脂は、当社が1950年にビニロン繊維の原料として世界で初めて工業化した合成樹脂であり、水溶性などの特性を生かして、紙加工剤、接着剤などに広く使われています。



## ●北米における土地の購入について

当社は、米国現地法人クラレアメリカ(KAI)によるテキサス州ラ・ポルテ市所有の土地の購入を以下の通り決定しました。

### ●概要

所在地	13100 Bay Area Boulevard, La Porte, Texas 77571, U.S.A. (KAIの<エパール>、<セプト> 工場から北へ約2kmの場所)
面 積	328,000m <sup>2</sup>
土地購入の背景	当社グループのコア事業である酢ビ(酢酸ビニル)・ポバール事業のグローバルな拡大戦略の一環として、北米での工場建設用地の確保が必要と判断し、土地購入を決定しました。

参考:当社グループの酢ビ・ポバール樹脂生産能力(年産)

酢 比	クラレ 岡山事業所	150,000トン
ポバール樹脂	クラレ 岡山事業所・新潟事業所 クラレアジアパシフィック (シンガポール)	124,000トン 40,000トン
	クラレヨーロッパ(ドイツ)	70,000トン※
	ポバール樹脂合計	234,000トン

※2013年度第1四半期に94,000トンへ拡大予定。

## ●国産技術による初の合成繊維ビニロンが国立科学博物館の『未来技術遺産』に登録

当社が1950年に世界で初めて工業化した国産技術による初の合成繊維ビニロンが、日本の科学技術の発展を示す貴重な資料として、独立行政法人国立科学博物館の重要科学技術史資料(愛称:未来技術遺産)に登録されました。

科学技術の発達上重要な成果を示し、次世代に継承していく上で重要な意義を持つものや、国民生活、経済、社会、文化のあり方に顕著な影響を与えたものが選定されます。



## ●鹿島事業所近郊に知的障害者作業所「あおぞらワークス」を開設

鹿島事業所は、社会福祉法人の協力を得て、同事業所近郊に知的障害者雇用施設「あおぞらワークス」を開設しました。当社は従来より、障害者の自立を支援するため、地域の福祉施設と連携して知的障害者のための作業所を設置しており、新潟・西条両事業所に続く3拠点目の開設となります。



2011年 1月

2月

3月

4月

## ● 歯科材料事業の統合について

クラレメディカル株式会社を子会社に持つ当社と、株式会社ノリタケデンタルサプライを子会社に持つ株式会社ノリタケカンパニーリミテドは、両子会社の歯科材料事業を統合することについて基本合意しました。

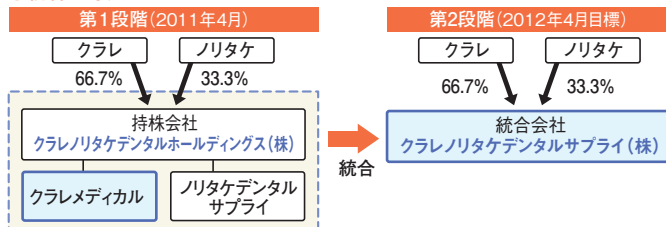
2011年4月に新たに設立する持株会社の下で両子会社の歯科材料事業の提携を進め、2012年4月を目標として持株会社、クラレメディカル、ノリタケデンタルサプライの3社を1社に統合する予定です。

両社の特長ある事業分野、有機系・無機系の技術力を組み合わせることによって、事業分野が大きく広がり、開発・製造・販売におけるシナジー効果が期待できます。

### ● 両子会社の概要

会社名	主要製品	強み
クラレメディカル	歯科用接着剤・充填材、 歯冠材料用 硬質レジンなど	● 歯科用接着剤・充填材で国内トップシェア(約40%)。 ● 高分子合成技術・有機合成技術をベースにした歯科材料の製品力に強み。
ノリタケデンタルサプライ	歯冠用セラミックス、 歯科用石膏、 CAD/CAM 機器など	● 歯冠用セラミックス(メタルボンド用)で国内トップシェア(約40%)。海外においても高いシェアを持ち、約90カ国へ輸出。 ● セラミックス技術をベースとした製品とその開発力に強み。

### ● 統合の方法



## ● シンガポールで産業排水の再利用 向け処理技術の実証研究

当社のPVAゲル担体を用いた生物処理システムと日東電工の分離膜システムを組み合わせ、工業排水の再利用を目指すという初めての試みが、シンガポールにおける工業排水の再利用向け処理技術に関する実証研究として、日東電工を委託先に採択されました。

同研究は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が公募する「省水型・環境調和型水循環プロジェクト」水資源管理技術の国内外への展開に向けた実証実験の一環として実施されるものであり、このベースとなる技術は、日東電工とクラレが共同で実証を進めているものです。

【件名】「高効率な生物処理と分離膜処理を組合せた、高濃度CODの工業排水の処理技術実証研究」

概要	高濃度なCODおよび窒素を含む工業排水をPVAゲル担体を用いた高効率な生物処理(嫌気処理および好気処理)にて前処理し、膜分離システムによって再利用可能な高品位な水を経済的に回収する事業の実証研究
実証場所	シンガポール ジュロン工業排水処理場
委託先	日東電工株式会社「分離膜システムの基本設計、設置および分離膜の最適化」
委託期間	2010年12月22日～2012年2月29日

※CODとは、化学的酸素要求量のこと。水中の汚泥物質(主として有機物)が一定条件のもとで化学的な酸化剤によって分解される際の酸素消費量。海域や湖沼などの水質汚泥の指標として用いる。COD値が高いほど水中の有機物が多く、水質汚濁が進んでいる。

## ● 東北地方太平洋沖地震の被災地・被災者の皆様への支援について

今般の地震により被災された皆様の救援および被災地の復興にお役にいただくための義援金として、1億円を寄付します。

また、上記に加え、不織布製の清掃用ワイパー125万枚、衛生ふきん、除菌ウェットワイパー、マスク、包帯などクラレグループ関連製品を救援物資として被災地の皆様へご提供できるよう手配します。

## 2010年4～9月期のクラレグループトピックス

- 4月 ブラジル現地法人の設立決定について
- 5月 大阪本社移転のお知らせ
- 6月 人工皮革<クラリーノ>無溶剤タイプの工業化で「繊維学会技術賞」を受賞
- 7月 <セプトン>Jシリーズの開発  
偏光フィルム向け光学用ポリアルフィルム生産設備の増設を決定
- 8月 アクリル系熱可塑性エラストマーのブランド名を<クラリティ>に決定  
機能性樹脂<エパール>APシリーズの展開について
- 9月 新潟事業所が障害者雇用優良事業所として表彰されました

連結損益計算書の要約

(単位:億円)

科目	当期*1	前期*2	増減
売上高	3,632	3,329	303
売上原価	2,436	2,372	64
売上総利益	1,196	957	239
販売費及び一般管理費	665	652	13
営業利益	531	305	226
営業外収益	29	30	△1
営業外費用	49	45	4
経常利益	511	289	221
特別利益	2	7	△4
特別損失	54	65	△11
税金等調整前当期純利益	459	231	228
法人税、住民税及び事業税	151	84	68
法人税等調整額	19	△17	36
少数株主損益調整前当期純利益	289	—	—
少数株主利益	1	1	△0
当期純利益	287	163	124

\*1: 2010年4月1日～2011年3月31日 \*2: 2009年4月1日～2010年3月31日

※損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の金額表示は、億円未満を四捨五入しています。

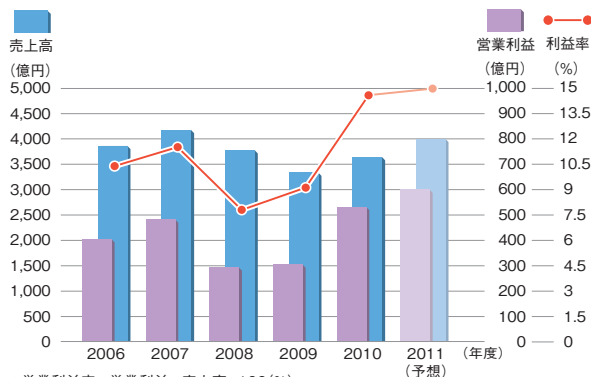
連結貸借対照表の要約

(単位:億円)

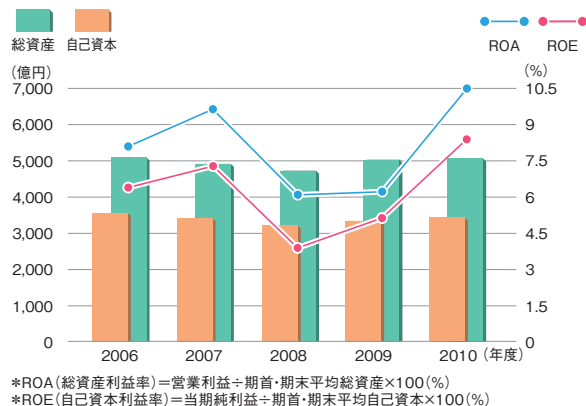
資産の部	当期*1	前期*2	増減
流動資産	3,106	2,493	613
現金及び預金	342	290	52
受取手形及び売掛金	761	759	2
有価証券	1,271	740	532
棚卸資産	614	578	35
繰延税金資産	60	58	2
その他	65	74	△9
貸倒引当金	△8	△6	△2
固定資産	1,967	2,535	△568
有形固定資産	1,452	1,637	△185
建物及び構築物	337	349	△12
機械装置及び運搬具	792	962	△170
建設仮勘定	119	116	3
その他	205	211	△6
無形固定資産	156	218	△62
投資その他の資産	359	680	△321
投資有価証券	196	490	△294
その他	165	195	△30
貸倒引当金	△2	△5	3
資産合計	5,073	5,028	45

\*1: 2011年3月31日現在 \*2: 2010年3月31日現在

売上高・営業利益・営業利益率



総資産・ROA・自己資本・ROE

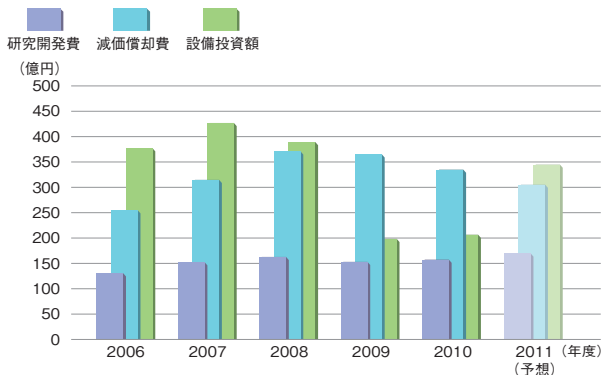


(単位:億円)

負債の部	当期*1	前期*2	増減
<b>流動負債</b>	<b>862</b>	<b>766</b>	<b>97</b>
支払手形及び買掛金	303	272	31
短期借入金	127	122	6
1年内償還予定の社債	100	—	100
その他	332	372	△ 40
<b>固定負債</b>	<b>743</b>	<b>884</b>	<b>△ 142</b>
社債	—	100	△ 100
長期借入金	430	465	△ 35
その他	312	319	△ 7
<b>負債合計</b>	<b>1,605</b>	<b>1,650</b>	<b>△ 45</b>
純資産の部	当期*1	前期*2	増減
<b>株主資本</b>	<b>3,610</b>	<b>3,392</b>	<b>218</b>
資本金	890	890	—
資本剰余金	871	872	△ 0
利益剰余金	2,257	2,041	217
自己株式	△ 409	△ 411	2
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>△ 179</b>	<b>△ 46</b>	<b>△ 133</b>
その他有価証券評価差額金	23	38	△ 15
繰延ヘッジ損益	△ 0	△ 1	1
為替換算調整勘定	△ 199	△ 82	△ 117
年金負債調整額	△ 2	—	△ 2
<b>新株予約権</b>	<b>6</b>	<b>2</b>	<b>4</b>
<b>少数株主持分</b>	<b>32</b>	<b>30</b>	<b>1</b>
<b>純資産合計</b>	<b>3,468</b>	<b>3,378</b>	<b>90</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>5,073</b>	<b>5,028</b>	<b>45</b>

\*1: 2011年3月31日現在 \*2: 2010年3月31日現在

## ■ 設備投資額・減価償却費・研究開発費



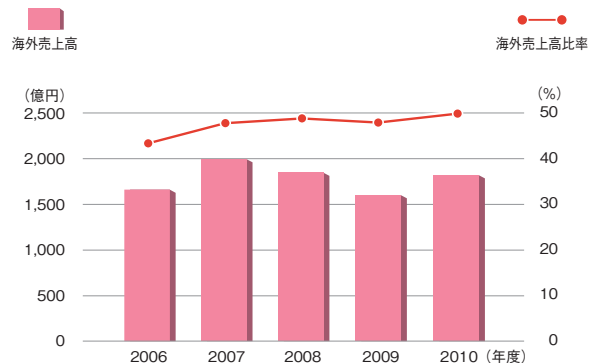
## 連結キャッシュ・フロー計算書の要約

(単位:億円)

科目	当期*1	前期*2
<b>1.営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>696</b>	<b>805</b>
税金等調整前当期純利益	459	231
減価償却費	335	365
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△ 106	△ 9
その他営業活動による支出	8	219
<b>2.投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 387</b>	<b>△ 1,075</b>
有形・無形固定資産の取得による支出	△ 187	△ 216
その他投資活動による収支	△ 200	△ 859
<b>3.財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 164</b>	<b>△ 28</b>
借入金の純増減額	△ 87	39
自己株式の売却・取得による収支	1	0
配当金の支払額	△ 73	△ 63
その他財務活動による収支	△ 4	△ 5
<b>4.現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>△ 15</b>	<b>0</b>
<b>5.現金及び現金同等物の増減額</b>	<b>130</b>	<b>△ 297</b>
<b>6.現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>164</b>	<b>462</b>
<b>7.現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>294</b>	<b>164</b>

\*1: 2010年4月1日～2011年3月31日 \*2: 2009年4月1日～2010年3月31日

## ■ 海外売上高推移



■ 発行可能株式総数

1,000,000,000 株

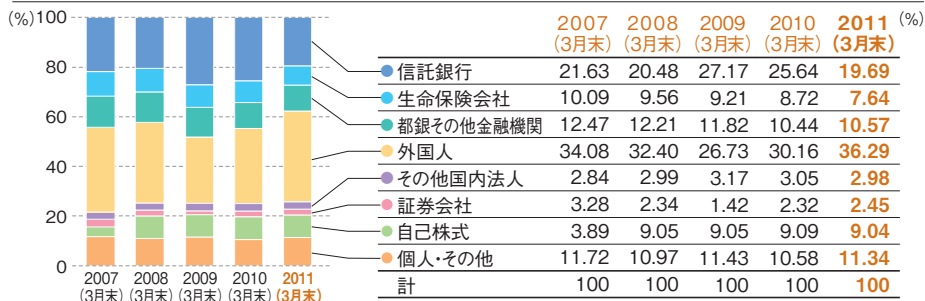
■ 発行済株式の総数

382,863,603 株

■ 株主数

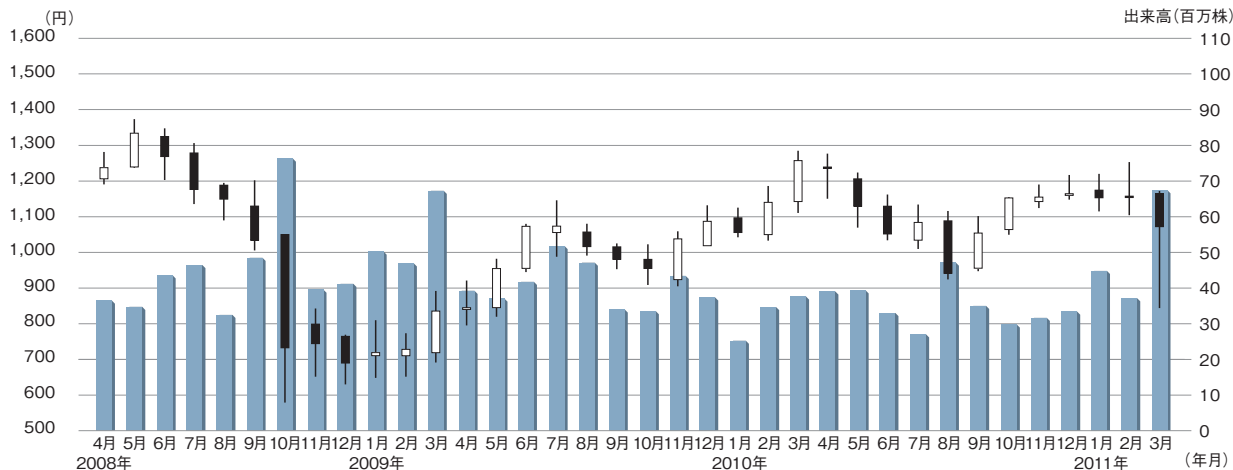
30,743 名

■ 所有者別株式分布の推移

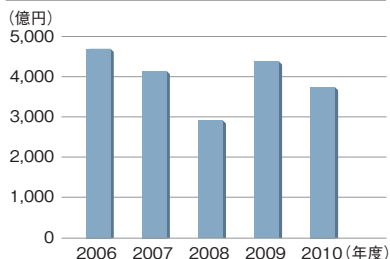


■ 株価・出来高の推移チャート

株価は東京証券取引所における市場相場による。

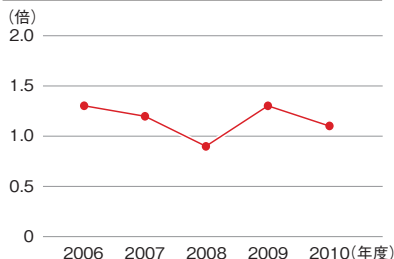


■ 時価総額 (期末)



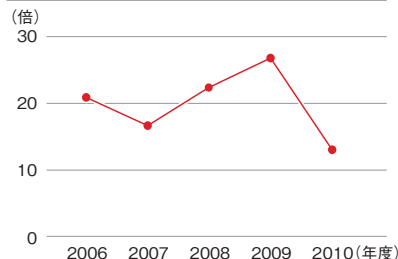
\*時価総額=期末株価×(期末発行済株式総数-期末自己株式数)

■ PBR (株価純資産倍率)



\*PBR=期末株価÷1株当たり連結純資産額

■ PER (株価収益率)



\*PER=期末株価÷1株当たり連結当期純利益

## 東日本大震災の業績影響について

鹿島コンビナートの一角を占める鹿島事業所(茨城県神栖市)の操業を一時的に停止いたしました。4月中旬から一部操業を開始し、6月下旬には完全復旧の見込みです。

(なお、その他の生産拠点への影響はございませんでした)

鹿島事業所は東京電力管内にありますが、鹿島南共同発電株式会社(鹿島コンビナート内の企業に電力などを供給する共同自家発電会社)から電力供給を受けることができるため、計画停電の直接的な影響はありません。

当社業績への直接的な影響については下記の通りを見込んでおります。

### 売上高・利益の直接影響額

	2010年度実績	2011年度見込み
売上高	△ 約10億円	△ 約30億円
利益(営業損)	△ 約3億円	△ 約10億円
利益(特別損失)	△ 約10億円	△ 約10億円

(注) サプライチェーンの混乱等による間接影響額については増減ともに織り込んでおりません。

## 株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

### 株主名簿管理人事務取扱場所

東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) ☎0120-176417(受付時間 土・日・祝祭日を除く9時~17時)

## アンケートご協力をお願い

「クラレ通信」をご覧いただきまして、ありがとうございます。今後とも株主の皆様とのコミュニケーションの向上を図っていきたいと思います。つきましては、添付のアンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。

ご回答いただいた方には、包装容器に当社のガスバリア性樹脂<エバール>\*1 APシリーズを使用した、キュービー社の商品をプレゼント\*2いたします。

本商品は、通常容量の樹脂製ボトルに比べ容器の厚さが薄いため、従来の<エバール>よりもさらに優れた酸素遮断性能が必要でした。<エバール>に独自の酸素吸収剤を配合した<エバール> APシリーズを容器に採用することで、賞味期間7ヵ月が実現し、商品化へとつながりました。

なお、勝手ながらアンケートは7月31日(消印有効)に締め切らせていただきますので、予めご了承をお願い申し上げます。



容器部分に  
<エバール> APシリーズ  
を使用したキュービー社の商品



### プレゼント商品(上記4つをセットでプレゼント)

左から「キュービーハーフ(10g×4個)」、  
「キュービー Italiante バジルソース(15g×2個)」、  
「キュービー パスタのためのオイルソースしょうゆ&ペパー(28ml×2個)」、  
「ヴェルデ イチゴ&バター風味クリーム(13g×4個)」。

\*1 <エバール>は、1972年に当社が世界で初めて工業化した、EVOH(エチレン・ビニルアルコール共重合体)樹脂の当社商標です。プラスチックの中で最高レベルのガスバリア性を持ち、酸素を遮断して内容物の劣化を防ぐことから、マコネーズやケチャップのボトルなど各種食品包装材などに普及しています。現在当社は日・米・欧の3拠点で生産しており、世界トップシェア(65%)を誇ります。

\*2 多数のご応募をいただいた場合、発送までにお時間を頂戴することがございますので、予めご了承をお願い申し上げます。



クラレは世界的な社会的責任投資(SRI)株式指数の構成銘柄に選定されています。

# kuraray

## 【表紙の写真について】

今回初めての試みとして、当社グループ社員の撮影した写真を表紙に使用しています。

撮 影 者：(株)クラレ岡山事業所 設備技術部

永井 正哉

タ イ ト ル：「ヨシゴイ\*」

撮 影 場 所：瓢湖(ひょうこ)／新潟県阿賀野市

撮影者のコメント：夏の暑い盛りにヨシゴイが食事をする瞬間を捉えた一枚です。餌の小魚を求めて水辺を動きまわるヨシゴイをフレームに納めるのに苦労しました。

\* ヨシゴイ

サギ科の鳥で、全長31～38cm。日本へは夏鳥として渡来し、全国のヨシ原や湿地で繁殖する。